

## ミューズ N0.6 平和のための博物館市民ネットワーク通信

発行：2001年10月 事務局:平和資料館・「草の家」(高知市升形9-11)

Tel: 088-875-1275. Fax: 088-821-0586 コーディネーター 西森茂夫

<http://www.ha1.seikyoku.ne.jp/Shigeo.Nishimori/>

[GRH@ma1.seikyoku.ne.jp](mailto:GRH@ma1.seikyoku.ne.jp)

### 海外の平和博物館

「草の家」国際交流部 山根和代

### 平和博物館国際ネットワークのニュース no.14 より

国際ネットワークの Newsletter (2001年8月発行)が届きました。紙面に制限があるため、海外のニュースを要約してお知らせします。

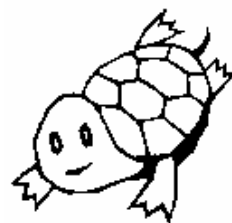
#### ケニア：地域に根ざした平和博物館

読者の多くの方は、第三回平和博物館国際会議が、1998年に日本で開催された時、ケニア国立博物館の Sultan H. Somjee 博士がアフリカの平和博物館についてわくわくするような報告をされたことを、覚えておられると思います。その後彼の活動が、活発に行われていることを報告できることは、喜ばしいことです。

今年の3月に彼が始めた「地域に根ざした平和博物館プログラム」は、どんどん増え、ケニアに30館できました。地域に根ざした平和博物館では、平和の木を植えたり、平和に関連した工芸品を集めています。ソミー博士は、「これまで戦争を扱った植民地時代の戦争博物館を見てきたが、地域社会で好戦的と考えられている人々に、平和博物館を理解してほしいと思う」と述べておられます。Kapsokwany という町の文化センターの John Langat さんは、地域の人々に工芸品の価値の見直しをするよう問いかけ、若者には薬物の乱用など外国の文化をまねることをしないよう警告しました。このセンターに対して、カナダの NGO で

あるメノー派教徒(兵役拒否などが特徴。記者)文化委員会が後援しています。

このような取り組みは、昨年から出されている Kocha という平和と市民社会に関する学校向けの月刊雑誌で、知ることができます。たくさんの地域の平和博物館、平和に関連した場所、平和の木、平和のことわざなどを知ることができます。アフリカの視点で、平和に関する記事や詩、読者の意見が載っています。Kocha は、カメの名前で、平和のシンボルとされています。へびの持つような毒液はなく、鳥が持つくちばし也没有。昆虫のように針で人を刺すこともありません。猫のような歯はありませんし、他の動物が持つ角もありません。安全のために、甲羅の中へ首をゆっくり引っ込めます。が、臆病者ではありません。



「平和と和解協議会」の年長者のように、カメはゆっくりですが、確実に動くのです。

Munyoyaya の人々はカメを大切にし、戦うことはしないのです。

ソミー氏によると、2000年6月25日、ケニアの Othaya にある小さな村にある共同墓地に、4本の平和の木を植えるために、いくつかの民族から約4000人の人々が集まりました。

この町では、ヨーロッパの植民者と戦った自由の闘志たちが、検閲、拷問、投獄で苦しんだ所です。1950年から1960年まで、何千人も亡くなりました。植民地時代及びその後の民族紛争で暴力の犠牲になった人々のために、今後もっと多くの平和の木が植えられるでしょう。このようなアフリカの平和を築く伝統により、記憶を通して過去の痛みをいやすことができるでしょう。アフリカの人本主義的な価値観は、平和の木や神聖な山や水のようなシンボルに表されています。

ソミー氏の東アフリカにおける平和教育や平和博物館の活動は、ケニヤや海外の Daily Nation, Young Nation, The Forth R, Sources (UN), Canadian Mennonite, Museums Journal (イギリス) で報道されました。彼はまた、ナイロビにあるケニア国立博物館で展示されている「アジア・アフリカの歴史とアイデンティティに関する遺産」も取り組んでおられます。これは、BBC で数回報道されました。

ソミー博士は、国連で平和のために活動しているユニークな人物12人の一人に推薦され、「文明間の対話を促進した、知られざる英雄」といわれる賞を受賞されました。私達は彼に、お祝いを申し上げたいと思います。CNN では彼の活動を放映しましたが、今後もしていくそうです。「アフリカの平和の木」という映画は、国際的に注目されています。この10分ばかりのドキュメント映画は、日本のテレビ会社がスポンサーとなり、ロンドンで映画を制作する有名な Bruno Sorrentino が作りました。

Dr. Sultan H. Somyee: Mennonite Central Committee, P.O. Box 14894, Nairobi, Kenya. Tel.: 00-254-2-443149; Fax: 00-254-2-445177; E-mail:

[MCC-Kenya-Office@maf.or.ke](mailto:MCC-Kenya-Office@maf.or.ke)

### ドイツの Meeder : 350 周年平和感謝祭

ドイツの中央にある Meeder (フランクフルトとライプツィのほぼ中間にある)に、St.Laurentius という教会があります。そこに小さな平和博物館が約20年間あるのは、決して偶然ではありません。というのは、この教会区では、三十年戦争が終わった1648年の平和の回復を祝い、1650年以来毎年記念祭を開いてきました。1944年に戦争で一度だけ、その行事を開催することができなかつただけです。1981年に330周年平和感謝祭が開かれましたが、その翌年に平和博物館が開館し、今年の350周年平和感謝祭で中心的な役割を果たしています。

第一次世界大戦後、ドイツでは「平和」は、「敗北」や「国家の恥」と同意語となり、またナチスが支配した時代でさえ、Cburger Land にある Meeder においては、その平和の祭は続けられました。1971年以来、一週間続く大規模な平和祭が、Meeder で十年ごとに開かれています。芸術からスポーツまであらゆる取り組みが、平和のために行われます。そのような取り組みの長い歴史があるため、平和博物館には豊かな資料があります。例えば、1657年に出版された祈禱書には、「平和の回復8周年」と書かれています。このちょっとした事実で、果てしない戦争が終わった後、平和がいかに新鮮でより良い時として迎えられたか、また新しいカレンダーの出発点になっているかを示しています。非常に印象的な展示物に、数ページない祭壇上の聖書があります。1941年ナチスは学校の子どもたちに、聖書の平和主義的な部分(Sermon on the Mount) を引き裂くように勧めました。ナチスは「汝の敵を愛せよ」というイエスの教えを歓迎せず、愛国心のない

「平和への誘因」と見なしたのです。その他戦争を思い起こす展示物に、教会の鐘の破片があります。(それは、十字架にくぎで打ち付けられています。)1871年、1917年、1940年に、教会の鐘は没収され、武器の製造に使われました。その破片が旧東ドイツの国境付近で見つかり、1985年にこっそり持ち出されました。

しかしその平和博物館では、歴史的な文化遺物の収集、展示をしているだけではありません。地域社会やより広い世界で、戦争と平和、人権、開発、難民、環境の諸問題に、積極的に関わっています。また平和研究センターとしての役割も果たしており、例えば1991年と今年、the Coburger Peace Book という本を出版しています。今年出版された *Coburger Friedensbuch 2001* という本は、Meeder とその地域に住む人々によって書かれた平和に関連した短い評論が60以上載せられています。歴史的な問題と現代の問題が取り上げられ、感激的で心温まる内容です。240ページもあるその本は、ミーダー平和委員会の代表として Karl Ebenhard Sperl 氏によって、編集されました。彼は序文で、平和感謝祭が Coburg とヨーロッパにおいて非常に良い伝統であり、その重要性を強調しています。私たちは絶えず平和の重要性とそのもろさを認識し、平和(単に戦争がない状態だけでなく、正義の存在を含む)を強化していかなければなりません。その本には、8月19日から26日までの350周年平和感謝祭の様々な行事(教会の礼拝、講演、コンサート、展示、劇、ゲーム、国際青年キャンプなど)が載せられています。連絡先は、次の通りです。

Karl Eberhard Sperl, Laurentiuspfarre,  
Schlosshof 2, D-96484 Meeder, Germany.  
Tel.: 00-49-9566-80188  
Fax:00-49-9566-80190;  
[friedensmuseum.meeder@t-online.de](mailto:friedensmuseum.meeder@t-online.de);  
Internet: [www.friedensdank.de](http://www.friedensdank.de)

私の人生を変えた  
広島平和記念資料館訪問  
アメリカ: David Krieger

私が広島平和記念資料館を訪問したのは、21才の時です。この訪問で、私の生き方が変わりました。1963年、私は日本に交流のため来ていました。その中に、8月の広島訪問が含まれていました。私は広島へ行くことを、不安に思っていました。広島の人々はアメリカ人に怒りを感じ、多分敵意を持って暴力を振るうかもしれないと思っていました。何と云っても私たちがアメリカ人は、18年前に広島に原爆を投下し、10万人をはるかに超える人々を殺したのですから。が、私の不安は、根拠がないことがわかりました。広島の人々はたとえアメリカ人に敵意があっても、それを示しませんでした。日本中の人々と同じように、広島の人々は若いアメリカ人に親切で、歓迎をしてくれました。

広島について私が高校と大学で学んだことは、「アメリカ軍の広島、長崎への原爆投下で、第二次世界大戦が終わった。」でした。しかし私が21才の時、広島平和記念資料館で学んだことは、「原爆の犠牲者は、ほとんどが市民で、男性も女性も子どもも無差別に殺された。」でした。



原爆で殺された多くの人々が、生きていた時焼け焦がされ、ある人々は燃えて灰になったことも学びました。被爆の実相は衝撃的で、アメリカの学校では学びませんでした。一番印象的だったのは、原爆が投下された時、座っていた人の影が壁に残されていたことです。その人は燃えてしまい、そ

の影だけが残ったのです。

広島平和記念資料館の訪問で、私の戦争観、特に核戦争に対する考えが、大変影響を受けました。そこには原爆に関連した様々な物や写真がたくさんあり、核戦争の無益を強く示していました。広島の過去を知ると、未来は核戦争に耐えることができないことがよくわかります。私の生き方は、微妙に変化し、戦争の悲劇を終わらせるために、何かしたいと思うようになりました。アメリカに帰国し、ベトナムに行けという軍隊の命令に対して、裁判で戦うようになりました。

約20年後、私は核時代平和財団(Nuclear Age Peace Foundation)を創設し、会長として約20年活動をしています。広島のごことは、いつも頭から離れず、広島での悲劇と私たちの人生におけるその意味について、詩や記事をたくさん書いてきました。そして核兵器廃絶のために活動をしてきました。そのために自分ができることは、すべてしてきました。核兵器を廃絶するために2000以上の組織があり、その国際ネットワークであるアポリション2000の創設者の一人です。広島の人々、そして被爆者の夢である核兵器廃絶を実現するために、世界中を旅行しています。

私は、博物館は本当に重要であると思います。時代のある時を、将来検討できるようにするからです。当然のことですが、博物館では偽りが無いことが重要です。博物館で公然と、また省略をして人を欺くことは可能です。ニューメキシコ州のAlbuquerqueにあるKirtland空軍基地に、最初の原爆に関する博物館があります。そこではその技術だけほめたたえ、被爆者の写真も展示もありません。無常で冷たい博物館で、訪問者は被爆者の苦しみをすることもできないし、何の感情も抱かないでしょう。

1998年広島平和記念資料館を再び訪問しましたが、最初の訪問から35年以上過ぎていました。その時私は、そこで演説をしました。その中で、「平和な都市、この神聖な都市、広島に帰ることができ、感謝の

気持ちでいっぱいです。広島は、悲劇的な出来事があっても、希望を再びよみがえらせたので、神聖な尊敬すべき都市なのです。世界では希望を持つことだ困難なことが多いのですが、広島の灰から希望の花が咲き、平和は可能であるという新たな希望を世界の人々に示しました。」と話しました。

2000年のはじめに、妻と資料館を訪問しました。館長の畑口實氏は、資料館の案内をされ、その時彼の父親の懐中時計とベルトのバックルを見せてくださいました。畑口氏は、原爆が投下されたとき、まだ生まれていなかったそうです。彼の父親は電車の車掌で、爆心地近くで被爆をされたそうです。彼の母親は、懐中時計とバックルしか見つけることができなかったそうです。私たちは、大変感動しました。

1995年核時代平和財団では、広島、長崎原爆投下50周年を記念し、平和の庭を造りました。私たちは、2才で被爆し、12才の時白血病で亡くなった佐々木禎子さんにちなんで、サダコピースガーデン(Sadako Peace Garden)と名付けました。彼女は、健康の回復と世界の平和を祈って千羽鶴を折ろうとしました。彼女は、「あなたの翼に平和と書くから、世界中に飛んで行ってね」と書いています。毎年8月6日に、私たちは音楽や詩、黙想などで平和の行事を行っています。

私は21才の時、広島を訪問したことで人生が変わるほど大きな影響を受けたと思っています。核時代を終わらせ、被爆者の心を世界中の人々に伝えるために努力しています。もし核兵器保有国の指導者が、広島と長崎の原爆資料館を訪問しなければならないような状況なら、世界を変えることができたかもしれません。

(David Krieger氏は、核時代平和財団の会長で、連絡先は下記の通りです。)

[dkrieger@napf.org](mailto:dkrieger@napf.org)

[www.wagingpeace.org](http://www.wagingpeace.org)

The Nuclear Age Peace Foundation:  
PMB 121, 1187 Coast Village Road,  
Suite 1, Santa Barbara, CA 93108-2794,



USA; Tel.: 001-805-965-3443;

Fax: 00-1-805-568-0466

未来に目を向け、過去を考える  
日本・オランダ・インドネシア展  
日本のオランダ領東インド占領  
Erik Somers

オランダと日本には、長い歴史的つながりがあります。数世紀の間、西洋の中でオランダは日本で交易所を持つことが許された唯一の国でした。オランダは、鎖国をしていた日本と西洋の文化をつなぐ役割を果たしました。しかし暗い歴史もありました。第二次世界大戦中、オランダと日本は敵国同士になり、日本はオランダ領東インド(今日のインドネシア)を占領しました。2000年に日本とオランダは友好400周年を、祝いました。文化、科学、経済、スポーツの面で、様々な催しをたくさんしました。最も顕著な出来事は、天皇のオランダ訪問でした。両国の友好400周年を記念した行事で、戦争時代の微妙な問題も出されました。オランダでは、戦争犠牲者や退役軍人は、第二次世界大戦中の経験を十分明らかにすべきであると主張しました。しかし日本では、古い傷を再び開けるのを避けるために、この時期を大目に見る傾向がありました。

オランダ戦史研究所では、戦時中の体験を両国において、展示物で伝える計画を立てました。戦争を歴史的に説明するのではなく、どのように戦争を体験し、どのように回顧しているのかを示すようにしました。日本の東インド占領中、オランダ人、日本人、インドネシア人の体験を、両国の多くの人々に知ってもらうために展示物を作りました。私たちは、特定の人々の体験だけ歴史的に扱うことを避けたいと思いましたし、罪の責任問題を展示の中心にする意図は、全くありませんでした。三つの国において、戦争体験や、それがどのように記憶されているのか、お互いにほとんど知らない状況です。ほとんどの日本人は、オラン

ダ人の抑留者やインドネシア人の体験について知りません。また多くのオランダ人は、日本の兵士がインドネシアでどのような体験をしたのか、また戦後当時のことがどのように考えられているのかを知りません。人々は、一人称で書かれた記録、写真、音を通して、参加国の人々の体験、その記録、相互に相手国に持つイメージを、展示で知ることができます。展示では、記憶の過程が理解できるようにしました。

展示では、形式と内容の両面で新しいものを提供しました。三カ国の資料、物、写真、音を、まとめたのです。初めて三カ国の人々の記憶のイメージが、並んで示されました。研究はオランダだけでなく、日本とインドネシアに重点を置いて行われました。三カ国の伝統のテーマは、「オランダ領東インドの日本占領 日本、オランダ、インドネシアでの記憶」という題に反映されています。

1998年大阪と京都で開かれた第三回平和博物館国際会議で、私達は初めて日本で展示をしたいことを話しました。そして博物館や自治体、諸団体と連絡を取りました。



しかし日本でその展示を行うことは困難であることが、わかりました。政治家や公務員は、このような微妙な問題に関わるのをいやがりました。その中には、展示の受け入れに反対し、妨害する人々もいました。しかし平和教育に携わっている NGO では、地方自治体が受け入れをいやがった展示をしてくれました。(福岡県水巻町、大分県臼杵市は、例外ですが) 展示は、立命館大学国際平和ミュージアム、水巻、臼杵、長崎絵秘話研究所、福岡(核戦争を予防する医師の会)、東京外国語大学、高知(草の家、自由民権記念館)で行われました。

**展示：ユートピア  
西洋での理想的社会の探求  
アメリカ：Joyce Aspel**

展示を製作した私達は、最初からこの展示で微妙な状況に置かれると考えていました。展示は当然、肯定的、また否定的に批評されました。例えばオランダにおいては、戦争犠牲者は、展示の中で自分達の体験が十分取り上げられていないと言いました。つまり日本がインドネシアを占領した時の、彼らの苦しみ、困難、失ったものを十分表していないというのです。これまでドキュメンタリーや本では、犠牲者の側面が強調されてきています。この展示では、インドネシア人とかかわりを持った日本人や、戦後立場が逆転して、抑留や強制労働、起訴で苦しんだ日本人にも焦点を当てています。展示製作者はできるだけ客観的な内容にしようと努力しましたが、ある日本人にとってこの展示は、西洋中心的で残念であるという反応もありました。またある日本人は、オランダの何世紀にもわたる植民地主義やインドネシア人の抑圧を、十分に扱っていないと考えています。(残念ながら展示に対するインドネシア人の反応は、まだ入手できていない状況です。インドネシアの政治情勢が安定すれば、2002年に展示の開催をしたいと考えています。)しかし展示に対する評価は、大体肯定的なものでした。3者の視点を入れたことで、とても評判が良かったのです。さらに展示の主な目的の一つですが、展示を見て対話をしたり、質問をしたり、公開討論をしたり、感想を述べ合うことができました。3国間で人々がお互いに理解し合えば、協力しあうことができます。この微妙な問題は、21世紀においても人々の関心を呼ぶことでしょう。(Erik Somers氏は、オランダ国立戦史研究所の展示企画長です。)

The Netherlands institute for War Documentation: Herengracht 380, 1016 CJ Amsterdam. Tel.: 00-31-20-5233-800; Fax: 00-31-20-5233-888; E-mail: [info@oorlogsdoc.knaw.nl](mailto:info@oorlogsdoc.knaw.nl)

「ユートピア」という展示が、ニューヨークの図書館(the New York Public Library)で2000年10月14日から2001年1月27日まで行われました。古代から現代まで、原稿、地図、出版物やまれな書物を通して、ユートピアと暗黒郷の異なった見方が、展示されました。展示の題で明らかにしているように、展示では西洋の概念に焦点を当てています。展示に、東洋、アフリカ、またその他の文化で、ユートピアがどのように考えられているのかを含め、さらにお互いに異なった見方がどのように影響し合ったのかを含めると良いと思います。

展示では、様々な作家、芸術家、思想家、活動家達が、どのように社会を批判的に考え、理想的な未来像を描いたかを知ることができます。この展示物は、フランスのthe Bibliothèque Nationale de Franceとアメリカのthe New York Public Libraryという二つの重要な団体が協力して作られました。パリの展示物には、トーマス・ジェファソンの手書きの独立宣言のコピーをヨーロッパの人々がどのように考えたのかを含んでいました。またアメリカの展示物には、フランス革命や、ロマン主義の時代のユートピアに関する原稿やまれな物が含まれていました。最初の三つの部門には、古代の世界や聖書における初期の頃から、中世、そして19世紀末までのユートピアの考えが探求されています。トーマス・モアから啓蒙思想までの、ユートピアの世界に関する部門があります。特に興味深いのは、15世紀以降の「新世界」の地図やその住民に関する彫版印刷物です。一階の展示は、19世紀の革命時代で締めくくられていて、ニューハーモニー(インディアナ州南西部の町。1825年ロバート・オーウェンが社会主義村を建設)やシェーカー信者(キリス

ト教の一派)のような国際的な地域社会に関する記録や、共産党宣言からパリコミューンまでの革命的見方が取り上げられています。

三階には「20世紀の夢と悪夢、ユートピアと暗黒郷」という展示があり、これはアメリカで作られました。展示物は大変興味深いのですが、一階の展示との関係が明らかにされていません。反戦、平和のテーマの所には、1960年代のアメリカのコミューンで生活して人々の写真がありますが、他の生活様式との違いなどが明らかにされていません。核戦争やベトナム戦争に反対する反戦ポスターや、公民権運動のデモ行進の写真やバッジ、フェミニズムや環境問題などに関連した物が展示されていました。展示物にもう少し説明がされていれば、1960年代の抗議運動の歴史がもっと明らかにされていたでしょう。訪問者は、マーティン・ルーサー・キング牧師の“I Have a Dream”という演説や、1960年代の音楽やビデオを見るために並んで待つほどでした。またギャラリーの残り半分には、プロパガンダ映画を上映し、ナチとソ連の全体主義を強調して暗黒郷を取り上げていました。

展示と共に、講演会や映画会が催されました。例えば、The Cinema of Utopia という映画が上映され、また西洋人が想像するチベットや、核の時代についての講演会が開催されました。

Utopia : The Search for the Ideal Society in the Western World という本 (eds. Schaer, Claeys and Sargent, New York : Oxford, 2000, ISBN 0-19-514111-3) を入手したい方は、[www.thelibraryshop.com](http://www.thelibraryshop.com) か、下記に問い合わせして下さい。

The New York Public Library, Library Shop, Fifth Avenue and 42nd Street, New York, N.Y. 10018 USA.

Joyce Apsel さん(Director of Rights Works, New York University) の連絡先 : 925 Andover Terrace, Ridgewood, NJ 07450 ; E-mail : [joyceapsel@hotmail.com](mailto:joyceapsel@hotmail.com)).

#### 第四回平和博物館国際会議の延期について

ベルギー：2003年に開催

1998年に大阪と京都で第三回平和博物館が開催され、第四回国際会議はベルギーの Diksmuide にある イーゼル塔 (the Ijzer Tower) という平和博物館と、Ieper にある In Flanders Fields という平和博物館で開催されることが決まりました。その後イーゼル塔では、資金作りのために様々な催し物を開催し、国際会議のために使っています。2000年に入り、定期的に会議を開いて、会議のプログラムを作成しました。2002年に開催の予定でしたが、3月12日の会議で、2003年に開催することが決められました。会議の組織には、国や地方自治体が果たす役割が大きいのですが、もっと正式な組織が会議の準備をすることが決められました。それには時間が必要ですので、会議の延期がされました。



イーゼル塔の Dirk Demeurie 氏と、In Flanders Fields という平和博物館の Piet Chielens 氏、「若者と平和」(Youth and Peace) と Peace Days という平和団体の代表者が、慈善のための組織を結成するために審議しています。

会議の延期に驚いたり、失望した方が多いでしょうが、会議の取り止めではないと Dirk Demeurie さんは述べておられます。これまで会議の準備のために努力されている皆さんに感謝し、会議の準備がうまくいくことを願っています。

**国際戦争・平和博物館の百年祭  
スイス：Lucerne（2002）**

第四回平和博物館国際会議が2003年に延期されましたが、2002年にスイスのルツェルン（Lucerne）で Jean de Bloch の国際戦争・平和博物館百年祭が開かれると、それは平和博物館関係者が集まるよい機会になるでしょう。

しかし百年祭の見通しは、まだ立っていない状況です。ルツェルン州文化局では、独自に百年祭を組織できないが、ルツェルン市が取り組むのであれば支持をすると述べています。現在、市として計画をしているのか、あるいは平和博物館国際ネットワークが提案している百年祭を支持するのか、その返事を待っているところです。

1902年6月に国際戦争・平和博物館が開館した時、多くの著名人が集まり、大きく報道されました。それは、第一次世界大戦後活動を停止するまで、スイスの有名なガイドブックで、ルツェルン市の名所として案内されていました。1902年版のルツェルン市ガイドブックの表紙には、博物館の建物と名前が載せられていました。博物館は、平和を願う人々だけでなく、軍人にも重要であると述べられています。ルツェルン市とスイス軍の援助があったから、ブロッホは国際戦争・平和博物館を開館できたようです。

ルツェルン市から良い回答を待っているところですが、ポーランド大使の Mr. Jerzy Marganski が、百年祭を全面的に支持すると表明され、心強く思っています。

2001年6月15-16日には、ワルシャワでブロッホ記念会議「ヨーロッパの安全保障：過去の経験と今後の見通し」がジーン・デ・ブロッホ協会の主催で開かれました。それは、ブロッホがノーベル平和賞候補に推薦されて百周年になることを祝って、ポーランド外務省の後援で開催されました。ジーン・デ・ブロッホ協会(the Jean de

Bloch Society / Towarzystwo Jana  
Gotliba Blocha)

の詳細を知りたい方は、下記に御連絡下さい。

Dr. Andrzej Werner : ul. Odyńca 15/7,  
02-606 Warszawa, Poland ; Tel. & Fax :  
00-48-22-844-7936, あるいは  
Fax : 00-48-22-622-6595

**その他のニュース**

**イタリア：平和博物館プロジェクト**

2001年3月ポローニャ付近のカサレチオ・ディ・レノ（Casalecchio di Reno）にある「平和への道」（Paths of Peace : Associazione Percorsi di Pace）という文化団体は、平和博物館計画を明らかにしました。この町は、1980年代の早い時期に非核宣言を行いました。平和博物館の建設で、寛容、連帯、非暴力の意義を一層広げていくことができるでしょう。

その団体は、20世紀後半イタリアの平和団体とその運動で作られた多くの重要な教材や宣伝の資料を、保存し活用したいと考えています。そこでは平和団体やポローニャにある国際平和主義ポスター記録センターと連絡を取り合っています。もし平和博物館が実現すれば、ポスター記録センターがその中に入ることが考えられます。イタリアの平和運動で重要な役割を果たしたいいくつかの団体では、すでに平和博物館に資料を提供することを約束しています。そこは、単に展示するだけでなく、学校を含め、全地域での教育活動を含め、様々な平和の取り組みをすることを目的としています。そこでは、平和の文化をどのようにして促進するのかを示すことになるでしょう。カサレチオという町は33000人の人口ですが、博物館が全くありません。平和博物館が造られると、町は活気付き、文化的に輝くようになるだろうと、その団体の人は考



えています。

同じ地域、レノ谷 (the Reno Valley) には、モンテソレ (第二次世界大戦中、残虐行為で荒廃した Marzabotto 付近) に、今年末開校する平和学校 (Peace School) があります。その地域は、平和自然公園と考えられています。開校の時、平和博物館が正式に開館することが望まれています。二つの計画をいっしょに取り組み、レノ谷をユニークな「平和の谷」にする計画があります。

2000年10月8日ポローニャで、イタリアで最初の平和博物館計画が明らかにされ、まだ初期の段階ですが12月4日にカタニアで開館しました。(Vittorio Pallotti さん、情報の提供を有難うございました。)



### ドイツ：世界の宗教・平和・倫理

ドイツの Tübingen にある世界倫理財団で、「世界の宗教・平和・倫理」というテーマの展示物 (2 x 1 m : 12 枚のパネル) が造られました。その財団は、著名な神学者である Hans Küng の著書「世界の責任：新しい世界の倫理を求めて」(In Search of a New World Ethic) の考えを促進するために作られました。世界倫理プロジェクトは、「この世界は、倫理がなければ生き残ることができない」という前提の下に始められました。またそれは、次の三つの確信をもとにしています。(1) 宗教間に平和がなければ、国家間の平和はあり得ない。(2) 宗教間に対話がなければ、宗教間の平和はあり得ない。(3) 様々な宗教の土台の研究がなければ、宗教間に対話はあり得ない。このような研究は初めてなされたのですが、それは1993年シカゴで開催された世界宗教者会議で、「世界の倫理宣言」にまとめられています。あらゆる宗

教の代表者が、初めて(1)非暴力と生命を尊重する文化(2)連帯と公正な経済的秩序(3)寛容と真実に基づいた人生(4)男女間の平等と協力を目指して、話し合いました。

展示には、短い説明文のあるパネル、引用、写真、イラストを使い、世界の六つの宗教(ヒンズー教、中国の宗教、仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)と共に、上記の世界倫理の原則を紹介しています。

Hans Küng 氏は、展示用の小冊子の序文に、「宗教者は、あまりにもお互いに相手の宗教を知らなさ過ぎます。特にあらゆる宗教と倫理に共通していることを、ほとんど知らないのです。この展示でそのような状況を変え、宗教の重要性について再考することを求めています。」と書いています。

その展示の英語版は、5月にロンドンのドイツ大使館で初めて展示され、その後イギリスで展示されています。(パーミンガム、レスター、グラスゴー、そして恐らくブラッドフォードで) 今後ニューヨークで展示の予定です。ドイツ語版(A1サイズ: 12枚のポスター)は、30ドイツマルクで入手できます。展示に関するパンフレット(英語版あるいはドイツ語版)は、次の所で入手できます。

Stiftung Welt Ethos (Global Ethic Foundation), Waldhäuser Strasse 23, D-72076 Tübingen, Germany. Tel.:

00-49-7071-626; Fax:

00-49-7071-610-140; E-mail:

[office@stiftung-weltethos.uni-](mailto:office@stiftung-weltethos.uni-tuebingen.de)

[tuebingen.de](mailto:office@stiftung-weltethos.uni-tuebingen.de)

[www.global-ethic.org](http://www.global-ethic.org)

[www.weltethos.org](http://www.weltethos.org) (ドイツ語)

### 英連邦博物館協会：平和の展示

英連邦博物館協会(The Commonwealth Association of museums: CAM) は、1974年に創立され、英連邦の博物館の連携を取るために存在しています。35ヶ国の博物館が加入していますが、54ヶ国すべての博物館の加入を目指しています。その会議は3

年ごとに開かれますが、1999年5月に「21世紀における博物館、平和、民主主義、ガヴァナンス(運営・管理)」というテーマで25周年会議が、バルバドス(西インド諸島の島)で開かれました。バルバドスの文部大臣、首相代理、外務大臣の演説があり、外務大臣は「博物館は人々の教育で、大きな力を発揮する可能性がある」と述べました。

会議では、これまで博物館関係者が重視してこなかった現代の諸問題に、目を向けるようにする試みがなされました。紛争のある社会における博物館の役割、変革を目指す博物館、異文化理解を促進する博物館、博物館が、平和と民主主義を促進する方法、ユネスコの平和の文化の取り組みなどについて、報告がありました。会議の結論として、文化が異なる人種で構成されている社会で、相互に尊重し理解することが重要であり、博物館が果たす役割が大きいことが強調されました。また平和、民主主義、ガヴァナンスの密接な関係、つまり民主主義の基礎として、平和の重要性、平和の基礎として、民主主義の重要性、開発に不可欠な平和についても討議されました。

今後の行動計画の中で、2001年から2010年までの「世界の子もたちのための平和と非暴力の文化国際10年」という国連の決議に基づいて、平和の文化を促進するような展示をすることが強調されました。

CAMでは、「英連邦の子もたち：平和の展示」を作成し、8才から18才までの子どもたちの芸術作品を40-60点集めようとしています。子どもたちの創造性と平和に関する表現力を伸ばし、平和について対話を促進することを目指しています。優れた作品は、大人の作品と一緒に、2002年にホームページで紹介し、また2003年に移動展示物にする予定です。

[www.center.uvic.ca/cam](http://www.center.uvic.ca/cam)

Cam's Secretary-General: Lois Irvine,  
Cultural Resources Consulting Services,  
R.R. no.1, De Winton, Alta. TOL OXO,  
Canada. Tel. & Fax: 00-1-403-938-3190  
[irvine@fcl.com](mailto:irvine@fcl.com)

(ブラッドフォード平和博物館の Peter Nias さん、Louis Irvine さん、情報の提供を有難うございました。)

## ペストとコロラドハムシ： 生物兵器とその歴史展

生物兵器を使った戦争は、昔からあります。例えば、1763年五大湖付近の Fort Pitt でイギリス人はアメリカインディアンの反乱を鎮圧するために、天然痘を流行らせようとした。また1837年にマンダン族は、四ヶ月の間に約1600-2000人の人口が、10%以下に減りました。1876年ロバート・コッホが炭そ菌の発見後、ドイツは1915年サボタージュしている人々に使いました。1933年から日本は生物兵器の研究を始め、ペスト菌の使用を含め、1万人の捕虜を細菌戦の実験に使いました。第二次世界大戦で細菌戦を行ったのは、日本だけでした。中国の情報によりますと、25万人以上の中国人が、1932年から1945年の間にその犠牲になりました。このような細菌戦に関する移動展示物が、ドイツの Max Delbrück Centre の Erhard Geissler 教授によって作られています。その移動展示物は、ドイツ科学財団の援助で作られました。1.2m x 2mサイズのパネルが、30枚あります。それは、第一次世界大戦中のサボタージュへの細菌使用、第二次世界大戦前および対戦中の細菌戦、細菌使用テロリズム、ジャガイモを破壊するハムシ、生物兵器と有毒兵器の統制という内容です。

展示には、ドイツ語の説明があります。そのカタログも入手可能です。Prof. Dr. Erhard Geissler, Max-Delbrück Centre for Molecular Medicine, Postbox 740238, Berlin 13092  
[geissler@macberlin.de](mailto:geissler@macberlin.de)  
(Malcolm Dando 氏の情報提供に、に感謝します。)

## グリーンナムコモン平和行進： 記念の彫刻

ウェールズのカーディフで1981年8月27日4人の赤ちゃんを乳母車に乗せた36人の女性と6人の男性がBerkshireにあるグリーンナム英国空軍基地へ行進し、アメリカの巡航ミサイルの配備に抗議したのは、世界の歴史に残ることです。これはグリーンナムでの女性の平和キャンプの始まりとなり、昨年まで続けられました。グリーンナム平和行進20周年を記念し、8月27日に記念祭をする予定です。その時、それを記念した彫刻の除幕式が行われます。

その彫刻は、1990年に提案され、2000年3月から22インチの青銅のひながたが資金集めのために博物館、美術館、市役所で展示されました。マルタ共和国のAnton Agiusの作品ですが、現在ウェールズの鑄造所で作成中です。赤ちゃんを抱いた女性の像は、次世代のために安全な世界を作ろうと努力している母親の世代を示しています。子どもは、平和の鳩を抱いています。平和行進をした女性が、女性参政権を主張した祖父母達に敬意を表して紫、緑、白のリボンを髪にしたように、像の女性もそのようリボンをしています。グリーンナムコモンの女性は、政府やマスコミから無視された時、体を鎖で基地の柵にくくり付けましたが、その鎖が像の腰の周りにあります。

その彫像をどこに展示するかは、まだ決まっています。そのひながたが、3500ポンドで売られています。また石膏の像は、イギリスの博物館に寄贈される予定です。平和行進を記念した彫像のビデオが、入手可能です。

Thalia D. Campbell: Glangors, Ynyslas, Borth, Ceredigion/Cardiganshire, SY24 5JU. Tel.: 00-44-1970-871360;

[greenhamsculpture@hotmail.com](mailto:greenhamsculpture@hotmail.com)

[oldlabour@hotmail.com](mailto:oldlabour@hotmail.com)

Website: [www.wfloe.fsnet.co.uk](http://www.wfloe.fsnet.co.uk)

## グリーンナム：歴史的記念の地

グリーンナムコモンに、Helen Thomas (1989年女性の平和キャンプで事故のため死亡)のために庭と、「大地、空気、火、水」の四つの要素を含んだ物を作ろうということが、1997年に話し合われました。核兵器に非暴力の立場で反対したことは、歴史に残すべきであると女性たちは考えました。1999年その計画は、West Berkshire 議会に出され、承認されました。連絡先は、次の通りです。

Sarah Hipperson: Dept. GCWPC, 15 Sydney Road, Wanstead, London E11 2JW; Tel.: 00-44-20-8989-4819;

[greenhamwpc@hotmail.com](mailto:greenhamwpc@hotmail.com)

[www.web13.co.uk/greenham/](http://www.web13.co.uk/greenham/)

またグリーンナムコモンの6つのサイロ(地下のミサイル格納庫と発射台)そこには96の巡航ミサイルがあったのですが、West Berkshire 議会に所有され、「遺産の地」として指定されることになりました。当時の隠れ家や避難所など様々な建物を歴史のために保存しよう、関心が高まっているようです。



## 「夜明けの射殺」記念碑：イギリス

6月21日、目隠しをされ、両手を後ろで縛られ、処刑を待つ少年兵士の像の除幕式が、第一次世界大戦中脱走したために射殺された兵士274人(イギリス及び32ヶ国の英連邦出身)を追悼して行われました。それは2メートル半の高さで、バーミンガムの彫刻家であるAndy DeComyn氏によって寄贈され、Alrewas(イングランド中部の都市、リッチフィールド付近)にある

National Memorial Arboretum (植物園) に置かれています。処刑された兵士の名前、年齢、兵卒、死亡した日が記された銘板のある木が 306 本、半円形に立てられ、その側に彫像が置かれています。そのモデルは、兵卒の Herbert F. Burdenn、当時 17 才、です。16 才の時、18 才と年齢を偽って入隊しました。彼はベルギーのイーパーでの大虐殺から逃れ、逮捕されました。1917 年に脱走したということで、夜明けに射殺されました。その像にかかる 6400 ポンドの費用を捻出するために、人々は処刑された兵士を「養子にする」ことが提案されました。お金を寄付した人々は、親戚や墓のない兵士の守護者となりました。

その記念碑は、イギリスでは唯一のもですが、処刑された若者も戦争の犠牲者であること認め、処刑という汚名は本人と家族から取り除かれました。この運動では、政府が処刑された兵士に恩赦を与えることを求めています。除幕式の時、植物園の園長である David Childs 氏は、「この記念碑は、処刑された若者の死は、戦争がもたらしたもうひとつの悲劇であることを認めるよう私達に求めている。そして私達が今日の若者すべてのために、平和な未来を築くために努力することを求めている。」と述べました。

Heather Slater 著、「夜明けに処刑された兵士の新しい記念碑」(New Memorial for Soldiers Shot at Dawn), Lichfield & Burntwood Express & Star, 2000 年 11 月 16 日、The Times(2001 年 6 月 22 日)の「少年の像、夜明けに射殺された兵士の悲劇を伝える」参照。

### 戦死した無名の市民たちを記念した石碑 アメリカ

ペンシルバニア大学の Stefan Schindler 教授によりますと、1993 年 Lewis Randa は、20 世紀の戦争で亡くなった一億人以上の市民のために記念碑がないことに気づき、彼らを記念した石碑を作りました。4000 ポンドの石に、「戦死した無名の市民たち」

と彫り刻み、マサチューセッツの Sherborn に The Life Experience School and Peace Abbey (人生体験学校と平和大寺院) を作り、そこに石碑を置きました。

1999 年石碑をアーリントン国立墓地に持って行こうとしましたが、連邦政府から許可がおりず、とりあえずジョージタウン大学平和研究所に置かれました。11 月 11 日の復員軍人の日に、人々は亡き兵士、市民、子どもたちなどのために、祈りをささげました。

2000 年夏石碑はアイルランドに送られ、2001 年初夏リバプールに送られました。ロンドンへ今後移動の予定です。その後アムステルダム、パリ、ベトナム、朝鮮、日本へ送られる予定です。

連絡先 : Lewis Randa, 2 North Main street, Sherborn, Massachusetts 01770, USA; Tel. 00-1-508-650-3659; Fax 00-1-508-655-5031;

website: [www.stonewalk.org](http://www.stonewalk.org). And also [www.peaceabbey.org](http://www.peaceabbey.org)

### ドイツ : 平和のイメージ展

ミュンヘンの芸術史中央研究所 (the Central Institute for Art History) では、11 月 30 日から 1 月 12 日まで「平和のイメージ展」をします。古代から 19 世紀末までのあらゆる芸術作品のジャンルにおける、平和の表現を約 40 点示しています。またグラフィックアートの作品の展示もあります。展示に関連した本 (Pax: Contributions to the Ideas and Representation of Peace) を出版の予定です。グラフィックアートや造形美術における平和のテーマ、古代芸術における平和の表現、作曲の対象としての平和、平和の詩、神学及び法律の歴史における平和の概念、アウクスブルクにおける平和に関する儀式に関して数人が執筆しています。

連絡先 : Dr. Wolfgang Augustyn, Zentralinstitut für Kunstgeschichte in München, Germany; Tel. 00-49-89-289-27565 and -27568;



Fax:00-49-89-289-27607; E-mail:

[w.augustyn@zikg.Irzmuenchen.de](mailto:w.augustyn@zikg.Irzmuenchen.de)

[www.zikg.Irz-kuenchen.de](http://www.zikg.Irz-kuenchen.de)

(Thomas Wechs 氏及び Dr. Wolfgang Augustyn に、情報の提供を感謝します。)

### ドイツ：1930年代の反戦画家展

バイエルンの画家、Johannes Matthaeus Koelz (1895-1971) は、第一次世界大戦における最悪の戦い(1916年フランスの Verdun で)の生存者です。彼の兄は、1914年に前線に送られ、戦死しました。このような戦争の苦い体験は、彼の人生に大きな影響を与えました。彼は1930年代までに尊敬される画家になり、1937年にはヒトラーの肖像画を描くよう依頼されました。それを拒否し、また「汝、殺すことなかれ」という反戦三部作を描き、著名になりました。その後家族と1939年にイギリスに亡命しました。しかしイギリスはドイツに戦争を宣言し、Koelz は、1940年にナチの迫害から逃れてきた何千人ものドイツ人と共に、抑留されました。彼はオーストラリアに送られ、強制収容所で一年間過ごしました。

ドイツから逃げる前に、彼は自分の絵画を20に分け、友人に配りました。そのうち6点が返り、その4点が娘の Ava Farrington さんによって the Leicester City Museums Service に寄贈されました。そして A Life Divided: Johannes Matthaeus Koelz という展示が作られました。彼の作品は、ヒトラーに従うことを拒否したドイツの芸術家の抵抗を示す作品として、芸術界で認められています。

展示は3月4日から10月7日まで the New Walk Museum and Art Gallery(53 New Walk, Leicester, East Midlands LE1 7EA, U.K.)で行われました。

Tel: 00 - 44 - 116 - 255 - 4100

Fax: 00-44-116-247-3057

[www.leicestermuseums.ac.uk](http://www.leicestermuseums.ac.uk)

30ページのカタログが、£3.99で入手できます。

### イギリス：和解の彫刻

1977年ノーベル平和賞受賞者の Sean McBride は、有刺鉄線越しに抱き合う男女の彫刻「再会」を公開しました。除幕式は、ブラッドフォード大学で行われました。1994年、芸術家 Josefina de Vasconcellos は、90才の誕生日の1994年に、平和学部の要請で、作品を公表し、それは「和解」と名付けられました。その後広島平和公園、Coventry Cathedral で公開され、ベルリンの「和解の教会」には同じものがあります。Rosemary Hartill によると、その彫刻は、過去の悲しみ、現在の友情、未来への希望を表しています。ベルファストの Stormont Castle では、同じような彫刻が設置されました。

Josefina de Vasconcellos は、1999年に子ども達の石膏の彫像「私達の罪の重み」を作りました。重い十字架の下に、地雷によって盲目になった子ども、虐待で苦しむ子ども、エイズで苦しむ少女などがいます。それは Cumbria に置かれる予定です。(Margaret Dalgety さん、情報の提供を有難うございました。)



### イギリス：彫刻「戦争の神」

Eric Kennington の「戦争の神及びその他の作品展」が、5月26日から8月26日まで Leeds City Art Gallery で行われました。彼は1933年から1935年までその彫刻の製作をし、1935年にロンドンで開かれた国際芸術家教会の「ファシズムと戦争に反対する芸術家展」でそれを公開しました。その展示は、ドイツやイタリアの独裁制の下で芸術家の自由が脅かされることに対する抗議でした。Kennington の彫刻の中で、戦

争で行方不明になった兵士にささげた the Memorial to the Missing が 1928 年に公開されました。フランス北部の戦場で戦死したイギリス兵 3987 人の名前が刻まれています。

彼の作品などを含んだ出版物 ( Henry Moore institute Essays on Sculpture, No.33, pp.12 )の入手先は、次の通りです。 The Henry moore Institute, 74 The Headrow, Leeds LS1 3AH, U.K. (Maggie Glover さん、情報の提供を有難うございました。)

### イギリス：ネルソン・マンデラ庭園

イギリスのリーズ市に、ネルソン・マンデラ庭園があります。4月30日リーズ市では、南アフリカ元大統領マンデラ氏に、リーズ市名誉自由市民という最高の名誉を与えました。その日にマンデラ氏は、約5000人の人々に、その庭園を見ると、彼の幸せだった子ども時代を思い出すと述べました。1983年12月10日マンデラ氏と反アパルトヘイト運動との連帯の象徴として、開所しましたが、それはその後人々に人種差別を拒否することを訴えてきました。

### 爆撃された教会が平和センターに

1993年IRAの爆弾で、St. Ethelburga という教会は破壊され、一人の写真家が死に、51人が負傷しました。ロンドン市で最も小さい教会で、14世紀に建てられ、ロンドン大火(1666)やロンドン大空襲(1940-1941)に耐えました。1998年ロンドン主教とウェストミンスター大主教は、その教会を和解センターとして保存し、紛争における宗教の役割を研究することを訴えました。必要経費の360万ポンドのうち、300万ポンド以上集まったため、教会を再建し、紛争を予防し、解決するセンターとすることが認められました。(the St. Ethelburga Centre for Preventing and Transforming Conflict)

### ベルギー：平和のカリヨン(組鐘)

ベルギーのMesen/Messinesにある聖ニコラス教会(St. Nicholas Church)に、平和のカリヨンがあります。そこでは、第一次世界大戦で50万人もの若者が戦死しました。1917年の戦争でその都市は完全に破壊されました。その付近に、平和のプールがありますが、連合軍がドイツ軍を破壊するために使用された地雷が爆発し、水たまりができたのです。平和のカリヨンは、和解と平和の国際的象徴と考えられています。1984年から鐘が寄贈され始め、現在大小52の鐘が集まっています。組鐘が完成するまで、大きな鐘が5個、小さな鐘が4個要るそうです。

平和と和解のために音楽が使われる背景として、教会の鐘が大砲に造りかえられ、戦争に使用されたことがあります。例えば1703年に教会に設置された鐘が、1793年フランス革命で取り除かれ、オーストリアとの戦争に使用されました。同じことが、1917年にも起こりました。朝8時から夜の8時まで、世界中の音楽を演奏することができます。Albert Ghekiere氏は、「平和の鐘で、毎日世界共通のことは、つまり音楽で平和の重要性を伝えることができる」と述べています。1917年Mesenの戦いで生き残ったドイツの退役軍人Otto Meyer氏は、1928年にSt. Nicholas Churchが再建された時、大きなシャンデリアを寄贈しました。これがきっかけで、教会を国際的和解の場として考え始めたのです。

近くには、1998年平和と和解の象徴として、アイルランド平和公園が北アイルランドとアイルランド共和国の若者によって造られました。

Albert Ghekiere, Nieuwe Rederijkerskamer Mesen(Association for Culture and Tourism), Kerkstraat 2, B-8957 Mesen-Messines, Belgium; Tel.: 00-32-57-44-40-51.

(Marcia Layfieldさん、Albert Ghekiereさん、情報の提供を有難うございました。)

## ザンビア：平和公園

7月7日ザンビアのNdolaに、平和公園（the Dag Hammarskjöld International Peace Park and Living Library）ができました。それは1961年国連元事務総長のDag Hammarskjöld氏がコンゴへ行く途中、飛行機事故で亡くなった場所の近くにありま

す。それはザンビアとスウェーデンの政府と人々によって、建設されました。開所式で、コフィ・アナン氏は、「その平和公園によって、私達が今日直面している問題がどんなに手に負えないように見えても、平和、正義、世界の人々のより良い生活のために努力するよう新たな気持ちが湧いてきます」と述べました。

2000年11月11日ヨルダンのアンマンで、旅行を通して平和を目指す学会 The International Institute for Peace through Tourism (IIPT) の会議が開かれました。Bethany に国際平和公園を作る予定で、平和のポールが建てられ、また11本のオリーブの木が植えられました。詳細は、下記に問い合わせると知ることができます。The World Peace Prayer Society: the World Peace Sanctuary, 26 Benton Road, Wassaic, New York 12592; Tel.: 00-1-845-877-6093; Fax: 00-1-845-877-6862;

[www.worldpeace.org](http://www.worldpeace.org)

IIPT は、エチオピアとエリトリアの国境に国際平和公園を造ろうと努力しています。2002年3月3日から7日まで初めてアフリカでIIPTの会議を開く予定です。

### 国際ネットワークのニュース

## オーストリア：シュライニング

ヨーロッパ平和博物館は5月5日に開館し、それは世界に「戦争は、紛争を解決する手段ではない」ということを伝えている

と、Helmut Bieler氏（Burgenland Government Minister）は述べました。またこの平和博物館では、平和が総合的に展示されており、展示物で平和の歴史を示すだけでなく、どのようにすれば平和の実現が可能であるかを示した世界で唯一の平和博物館であると述べました。そこは平和のための政治や政策を、国際的に話す場であると考えられています。

仲裁と和解をテーマとして展示もされ、仲介が国際社会だけでなく、個人の日常生活においても理想的な手段であると芸術家のFranz Morak氏は述べました。彼はまた、芸術は憎しみを生むこともできるし、国際理解を促進できるとも指摘しました。

展示室以外に、お店、教育のための部屋（30人）視聴覚図書を含めた小さな図書館があります。新しいロゴが創られ、新しいパンフレットが出版されました。2000平方メートルの展示場のうち、1400平方メートルが常設展示用に、600平方メートルが移動展示用に使われています。



また60平方メートルの部屋が、学校から来る生徒のための展示や、市民が行う展示などに使われます。

その平和博物館では、暴力、紛争、平和という三つのテーマが取り上げられています。また展示物に、英語とハンガリー語などの説明文を加えることも検討しています。

仲裁に関する展示は10月31日までです。開館時間：9時から18時まで

休日：月曜日 Tel.&Fax:00-43-3355-2306

[www.aspr.ac.at](http://www.aspr.ac.at)

[hainzl@aspr.ac.at](mailto:hainzl@aspr.ac.at) (Manfred Hainzl)

## フランツ・イエーガーシュテッターへの 祈り

ドイツの神学者である Manfred Scheuer 氏は、ナチに抵抗して処刑されたフランツ・イエーガーシュテッターへの祈りを作詩しました。9月24日から29日までフランツやその他ナチに抵抗したオーストリア人やドイツ人の足取をたどる旅を計画しています。10月26日(オーストリアの祝日)には、ブラウナウ(ヒットラーの生誕地)の教会で、Pavel Smutny に作曲された祈りが教師の聖歌隊によって披露されます。

## オーストリア : Wolfsegg

オーストリアで最初に開館した平和博物館では、館長の Franz Deutsch 氏の平和のリーフレットが、ホームページに掲載されています。(ドイツ語です)今後英語版も載せる予定です。

[www.oebvw.org/Friedensmuseum/Friedensmuseum.htm](http://www.oebvw.org/Friedensmuseum/Friedensmuseum.htm)

## ベルギー-Antwerp

アントワープの平和センター(Peace Centre)では、「アントワープ市の1万羽の折り鶴」という取り組みで、10校の子どもたちが折り鶴1万羽を1月に市長に手渡しました。それは広島平和公園にある佐々木禎子さんの像のある所に送られました。

またフランドル文部大臣の支持の下で、4月から5月に第二次世界大戦中初めて使用された長距離ミサイルによって、何百人もの市民が殺された場所へ、市民が歩居て行く取り組みがされました。

平和センターは市の中心部にある Open Education House(Lange Gasthuisstraat 29)に引っ越しました。

## ベルギー : Diksmuide

イーゼル塔平和博物館(the Ijzer Tower peace museum)は、開館していますが、同

じに修復もされており、2002年には修復が完了する予定です。公開されている部分には多くの訪問者があり、1999年3月から12月まで7万人、2000年には10万人でした。特に5月の「平和の日々」の間、学校から子どもたちが訪問します。

2001年3月23日から塔の5つの階(9階から13階)が公開され、そこでは二つの大戦間のフランドル人の解放運動、第二次世界大戦の恐怖、戦後の国内外の諸問題を扱っています。

5月から6月にかけて、フランドルで5つの平和コンサートが開催され、成功しました。同じコンサートが11月11日(休日)に、Diksmuideでフランドル平和の日の行事として行われます。

8月26日には第一次世界大戦で戦死した兵士の墓まで74年目の巡礼の旅が行われます。また10月6日には、「ヨーロッパ：平和の心」という討論集會が開かれます。

## フランス : Caen

カーンの平和記念館では、展示、来館者の活動、博物館の配置など大幅に見直すことにしました。

以前お知らせしましたように、著名な平和研究者の Johan Galtung や Jacques Semelin の助言を得て、平和と平和の構築という複雑なテーマを、はっきりと総合的に展示することになりました。新しく創られた平和のホールでは、世界の平和の文化を紹介しています。6つの文明・文化(ギリシア・ローマ、キリスト教、ユダヤ教とイスラム教、ヒンズー教と仏教、中国と日本、先住民)における平和に関する考えが展示されます。また平和への6つの取り組み方(国際的取り組み、戦争の全廃、非暴力、紛争の転換、平和的構造、平和の文化)も展示されます。さらに、平和を促進する4つの行動計画(平和研究、平和ジャーナリズム、平和教育、平和運動)を展示します。平和の取り組みとは対照的に、社会あるいは個人レベルの暴力(直接、間接、文化的暴力)が展示されます。また広く丸い



形の空間を設け、来館者が世界の紛争を人目で見ることができるようにする予定です。

### ドイツ：Hindelang

Hindelang/Allgäu にある平和歴史博物館では、5月20日（国際博物館の日）以来、Hans Ladner 教授作で、Dr.George Bell（イギリスの勇敢な主教）及び Dr. Max Josef Metzger（世界白十字平和ユニオン創設者）の胸像が、展示されています。

7月14日には Hubert Lang による平和の彫刻が公開されました。

Lindau の平和博物館の創設者である Thomas Wechs 氏は、そこにある平和の庭と同じような平和公園を Bavaria に創ることを、地元の新新聞 Lindauer Zeitung を通して呼びかけています。

### ドイツ：Lindau

5月12日に「平和の部屋」が公開され、演説、ガイドの説明、映画の上映、祈り、コンサートが行われました。

「平和の部屋」は、芸術家の Ruth Gschwendtner 氏によって取り組まれ、人々が諸問題に建設的で非暴力の立場に関わっていく勇気と能力を与えることを目的にしています。学校の子供たちが来館する時は、市民の抵抗、仲裁、コミュニケーションなどのテーマでワークショップが行われます。子供たちが、音楽やお話を聞ける広い空間があります。

改修に18万マルクかかりましたが、私立博物館の促進のための公的資金、Pax Christi などの援助がありました。なお「平和の部屋」は、5月12日から10月末まで開館しています。

### ドイツ：Remagen

暖房装置を設置したので、冬季でも開館できそうです。昨年来館者の数が減り、2万人になりました。今年末には、1980年の開館以来、約50万人の来館者となりそう

です。

館長の Hans Peter Kürten 氏は、ニュースレターで、Remagen-Sinzig での死の収容所体験をしたドイツ軍捕虜の日記の一部を載せました。また捕虜が榴散弾の破片で作った手紙開封用ナイフが、寄贈されました。

### インド：Madurai

Madurai にあるガンジー記念博物館では、ホームページを作成しました。

[www.gandhimmm.org](http://www.gandhimmm.org)

Mr. S. Pandian, Gandhi Memorial Museum, Madurai 625 020, Tamil Nadu, India; Tel: 00-91-452-652822 及び -531060 E-mail: [gandhimmm@lycos.com](mailto:gandhimmm@lycos.com)

なおガンジーを写真で紹介されている Peter Rühle 氏の連絡先が変わりました。

Rathausstrasse 51a, 12105 Berlin. Tel. & Fax: 00-49-30-705-4054;

携帯電話：00 - 49 - 172 - 313 - 4707 ;

[peterruhe@hotmail.com](mailto:peterruhe@hotmail.com)



### 日本：広島、高知、京都

#### 広島

「平和の文化」No.46 のニュースが紹介されています。広島・長崎原爆展が、2000年秋にウィーン国際センター（国際原子力機関主催）で開催され、多くの政府代表者が見学しました。広島平和文化財団では、1995年度から7ヶ国15都市でこのような展示をしています。また昨年11月に市民グループが中国を訪問し、「平和と軍縮を求める中国人民協会」の人々などと交流をし、また北京の抗日戦争博物館や南京にある南京虐殺犠牲者記念館を訪問しました。

## **高知：草の家**

Muse no.5(2001年7月発行、山根和代編集)には、日本やアジア・太平洋地域の平和博物館のニュースが載せられています。また長野や福井などでの平和博物館を創る草の根の運動に関するニュースも、貴重です。マーシャル諸島では、水爆実験50周年に平和博物館を開館する予定です。

## **京都：立命館大学国際平和ミュージアム**

安齋育郎教授が、館長に再度任命されました。国際平和ミュージアムでは、今後滋賀キャンパスに環境保護をテーマにしたエコミュージアム、大分県の立命館アジア太平洋大学には国際理解をテーマにした博物館の建設をしたいという案があります。立命館大学は、世界ではじめて大学に平和博物館を建設し、また大学に平和博物館がある唯一の大学です。安齋氏の貴重な提案が実現されることを願っています。

## **オランダ：ハーグの平和宮**

最近出版された国際司法裁判所年鑑(1998-1999)には、1999年に開館した国際司法裁判所博物館の内容が記されています。「正義のある平和」というテーマで、1899年と1907年に開催されたハーグ平和会議、常設仲裁裁判所(1901年設置)、平和宮の建設、国際司法裁判所の歴史と機能などに関する展示があります。  
Yearbook 1998-1999. The Hague: International Court of Justice, 1999, no.53

## **オランダ：平和・非暴力博物館**

4月15日から6月17日まで、Heerenveenにある博物館で、ドイツにおける良心的徴兵忌避者12人に関する展示が行われました。これはベルリンの反戦博物館が制作した展示です。家族の中に処刑された人がいることを思い出したくない人

が多いため、写真、日記、最後の手紙は、入手が困難でした。私達にとって反戦者は、英雄的存在ですが、ドイツでこのことは、今でもタブーです。

以前お知らせしましたように、移動できる平和博物館として船を購入しましたが、予想以上に傷みが激しく、廃船にすることにしました。今後計画を立て直し、当面移動展示物やホームページの作成を予定しています。

## **ノルウェー：ノーベル研究所**

8月9日から12月30日までオスロの民族博物館で、ノーベル賞百年史(1901-2001)に関する展示(Cultures of Creativity: The Centennial Exhibition of the Nobel Prize 1901-2001)が行われます。またノーベル平和賞受賞者の写真展(フランスの写真家Micheline Pelletierによる)も、行われます。8月末には、「平和のための百年」(100 Years for Peace - 1901 to 2001)が出版されます。(ノルウェー語と英語)またノーベル平和賞を記念した切手やコインが作られます。12月はじめには、ノーベル平和賞百年記念シンポジウムが開催されます。12月10日には、2001年ノーベル平和賞授賞式が、オスロ市役所で行われます。

ストックホルムのノーベル財団では、ホームページの内容を良くしました。

[www.nobel.se](http://www.nobel.se) 及び [www.nobelprize.org](http://www.nobelprize.org) ここでは、ノーベル賞、その受賞者、ストックホルムにおけるノーベル博物館建設計画、オスロにおけるノーベル平和賞博物館建設計画について知ることができます。20ページのブックレットが3月に発行され、詳細を知ることができます。

Nobel e-Museum, Sturegatan 14, P.O.Box 5232, SE 102-45 Stockholm, Sweden. Tel.: 00-46-8-663-1707; Fax: 00-46-8-663-1755.

(Anne C. Kjellingさん、情報の提供を有難うございました)なお Cultures of Creativityの展示は、2002年3月19日か

ら6月9日まで上野の国立科学博物館でも展示されます。

### スペイン：ゲルニカ

4月19日から28日まで、ゲルニカ平和博物館では、空爆64周年を記念して展示、芸術活動、生存者会議などが開かれました。

「和解のための芸術」という移動展示物があります。一ヶ月の使用料は、570ポンド、そして輸送費と保険料がかかります。関心のある方は、館長のIratxe Momoitio氏に、連絡して下さい。CD-ROMも出されました。

### スイス：ジュネーブ

国際赤十字・赤新月博物館では、3月21日から11月25日まで「黙示録01」という展示が行われています。ヘンリー・デュナンは、100年前の最初のノーベル平和賞受賞者ですが、ダニエル書や黙示録に魅せられました。展示を宣伝するポスターには、「展示物は、黙示録の今日における意味を考えさせてくれます。」と書かれています。11月1-3日には、デュナンのノーベル平和賞受賞百周年を祝って、シンポジウムが行われます。またジュネーブ平和協会創設者Jean-Jacques de Sellon伯爵に関する展示が行われます。

### イギリス：Bradford

平和博物館を含む国際平和センターの設立が予定されていますが、具体的な計画が市議会で検討されています。

平和美術館では、John Dicksonの「力と忍耐」という反戦像の展示、子どもの平和芸術作品展が行われました。20世紀に平和運動で活躍した女性に関する展示や、ノーベル平和賞受賞百周年を記念した展示が準備されています。後者は、10月から学校、図書館などで展示される予定です。

## アメリカ：シカゴとデトロイト

### シカゴ

1981年に創設されたシカゴ平和博物館は、資金不足のため存続が危ぶまれていましたが、地域住民の援助で何とか存続できるようになりました。教育面では、児童文学を通して、非暴力の重要性を教える教師を対象に、ワークショップを計画しています。

海外には、移動展示物の貸し出しをしています。8月には、広島、長崎の被爆者展をします。また創立20周年記念行事の準備もしています。

平和的変革を促進するような移動展示物が、16点ありますので、関心のある方は御連絡下さい。

新住所：The Peace Museum: 100 North Central Park Avenue, Chicago, Illinois 60624; Tel.: 00-1-773-638-6450; Fax: 00-1-773-638-6452.

Website:

[www.peacemuseum.org](http://www.peacemuseum.org)



### デトロイト

ミシガンでは死刑制度が昔からなく、ミシガン州の人々に名誉を与えるような記念碑を作る予定です。少なくとも10万ドル必要で、資金を集めているところです。

3月25日から5月24日まで子ども平和美術展が開催されました。またクリントン大統領の決定ですが、第二次世界大戦中9000人の日系アメリカ人が強制収容されたミネソタの強制収容所が、国の記念建造物として残されることになりました。

## ウズベキスタン：サマルカンド

国際平和・連帯博物館館長の Anatoly Ionesov 氏は、充実したホームページを紹介されています。

[www.friends-partners.org/~cssi/nisorgs/uzbekmuseum.htm](http://www.friends-partners.org/~cssi/nisorgs/uzbekmuseum.htm)

[www.museum.com/jb/museum?id=26810](http://www.museum.com/jb/museum?id=26810)

[www.ipb.org/members/info/uzbekmuseum.htm](http://www.ipb.org/members/info/uzbekmuseum.htm)

Anatoly さんによりますと、2 番目のホームページは、「世界の博物館」(Museums of the World: Museum.com GmbH: Königsallee 106, D-40215 Düsseldorf, Germany)のホームページです。世界の博物館に関する最新情報の入手が、可能ですので、平和博物館も加入すると、いいと思います。加入すると、多くの人々に平和博物館のことを知ってもらうことができます。加入したい方は、下記に連絡して下さい。

[www.museum.com](http://www.museum.com)  
[contact@museum.com](mailto:contact@museum.com) (Ms Elke Strauch)

アナトリーさんは、「世界の博物館」(Museums of the World の 2 volumes: K.G.Saur Verlag 著、2001 年 5 月出版 Luppenstrasse 1b, D-04177 Leipzig, Germany; Tel.: 00-49-341-486-9911; Fax: 00-49-341-486-9913; E-mail: [M.Ziels@saur.de](mailto:M.Ziels@saur.de) を紹介しています。もし新しい版に、あなたの平和博物館を含めてほしいのであれば、前記の方に御連絡ください。

国際平和・連帯博物館に電子メールを送る場合、テキスト形式でお願いします。返信の際は、最初の文を削除して送信してください。[Peacetur@samarkand.uz](mailto:Peacetur@samarkand.uz)

以上が、平和博物館国際ネットワークのニュースです。

編集者： Dr. Peter van den Dungen,  
Peace Studies Dept.,The University,  
Bradford Bd7 1DP, UK  
Fax: 00-44-1274-235240

発行： Give Peace a Chance Trust,  
Gerald Drewett, 20, The Drive, Hertford  
SG143DF, UK

## その他のニュース

### 平和主義者を紹介：カナダ

20 世紀に平和の実現のために努力した人々を、The Wounded Dove という CD-ROM で紹介しています。(英語)

Neil Lundy 氏の連絡先：

[NeilLundy@Compuserve.Com](mailto:NeilLundy@Compuserve.Com)

Fax: +1-416-694-9881

### 芸術を通して軍縮を：ドイツ

ボン国際転換センター (the Bonn International Center for Conversion) のホームページを開くと、芸術を通して軍縮をすることが可能であることを示しています。

<http://www.bicc.de/general/converart/preface.html>

### イギリスの子ども達：戦車博物館へ

ドーセットにある Bovington Tank Museum という戦車の博物館へ、夏休みに家族で出かけることを勧めた記事が、イギリスの新聞、The Times(8月2日)にあり、驚きました。

(Dr. Peter van den Dungen から送られて来ました。)



## \* 国内のネットワークより \*

### 埼玉県平和資料館

7月24日から8月31日まで「絵でたどる日本のいくさII - 描かれた戦争画」が展示されました。また戦争関連遺跡見学会もしました。その他、戦中、戦後をふり返る名画の上映が行われました。(ピカドン、黒い雨、武器よさらば、ビルマの豎琴、戸田家の兄妹))

### 大阪国際平和センター

8月2日絵本劇場(語りは清野友義さん)が開かれました。また8月12日には、ビデオ「戦場へ行った天使 - 比島・従軍看護婦の軌跡」が上映されました。

9月15日講座平和学入門「国境なき医師団の医療支援活動と私たちができること」(医師、宮里博保氏)を開催しました。また9月29日には、北沢洋子氏(11月より日本平和学会会長に就任予定)の「私が見た世界の“今”グローバル化と平和」の講義がありました。

ピースおおさか開館10周年記念事業「忘れられない歌～戦争の世紀から平和の世紀へ」と題して、12月1日にNHK大阪ホールでピースコンサートをします。

### 立命館大学、国際平和ミュージアム

「平和友の会だより」No.93によりますと、9月2日平和学習会「久保山愛吉・すずものがたり - 非核の世界への叫び」(講師：飯塚利弘氏)が行われました。10月13日には「テロリズムとイスラーム復興 - アフガニスタン情勢を中心に」(浜中新吾講師)、11月8日には「平和のための経済をどう創るか」(藤岡惇教授)という平和学習会をします。また9月27日から10月21日には、「世界報道写真展2001」が、そして10月26日から11月15日には「ベト

ナム子ども絵画展」が開催されます。

### 高松市平和記念室

7月30日から8月3日まで、市民から寄贈された戦争遺品を中心に公開展示をしました。また高松空襲写真・パネル展を7月3日から8日までしました。平和記念室では、戦時下の諸物を引き続き集めています。

### 平和文化史料館ゆきのした

11月23日開館します。始めは何もなく、希望と情熱だけがあつたそうです。50年間の活動の日々、年月の中で創り出され、集め、寄せられた物を展示します。

(館報No.119より)

### 平和人権子どもセンター(堺市)

「新しい歴史教科書をつくる会」編集の教科書が、4月3日に検定合格しましたが、当センター作成の教科書関連パネルの貸し出しや展示、講話の依頼や来館が相次ぎました。「草の根」No.15には、「観光コースにないアジア Watching15」が載せられています。

### 太平洋戦史館(岩手県)

「戦史館だより No.32」(以前はイリアンだより)によると、6月25日西部ニューギニア、ゲニムで父親を亡くした遺族3名と共に、遺骨返還交渉に臨み、遺骨の引渡しが可能になりました。太平洋戦史館では、戦後処理の早期完結を働きかけています。

### 仙台市歴史民族資料館

「みやぎの近現代史の会ニュース」No.14

によると、みやぎの近現代史を考える会が毎月開かれています。特別展「教科書でたどる学都仙台」など、地域に根ざした活動を紹介しています。(Tel: 022-295-3956)

#### **ホロコースト教育資料センター**（東京）

3月2日から5月30日まで「子どもたちが見たホロコースト」展と「ハンナのかばん」写真展が開催されました。

<http://www.ne.jp/asahi/holocaust/tokyo>

[Holocaust@Tokyo.email.ne.jp](mailto:Holocaust@Tokyo.email.ne.jp)

Fax: 03-5363-4809

#### **丸木美術館**

7月8日に針生一郎氏(丸木美術館館長)の講演「丸木位里論」がありました。また8月5日に講演「丸木夫妻を偲んで」(石牟礼道子講師)をし、また映画「水俣の凶・物語」(土本典昭監督)を上映しました。

<http://www.aya.or.jp/marukimsn/>

[marukimsn@aya.or.jp](mailto:marukimsn@aya.or.jp)

#### **地球市民かながわプラザ**

7月20日から8月19日にユネスコ・アジア太平洋写真展をしました。人種・民族・宗教など様々な違いを超え、自然との調和のもとに人々が平和に暮らす姿をとらえた写真110点を展示しました。

<http://www.pref.kanagawa.jp/link/plaza/index.htm> Fax: 045-896-2299

#### **広島平和祈念資料館**

7月19日から10月18日まで企画展「サダコと折り鶴 時を越えた生命の伝言」が展示されました。また9月には、展示会「終戦後の子どもの暮らし」が行われました。その他のニュースは、国際ネットワークのニュースに載せられています。

#### **ホロコースト記念館**（広島）

「小さな手」(通信)No.8によると、岐阜県にある杉原千畝記念館と人道の丘への研修旅行、スマダールさん(ホロコースト生還者の娘)の話などが紹介されています。英文のニュースレターも充実しています。

<http://www.urban.ne.jp/home/hecjpn>

[hecjpn@urban.ne.jp](mailto:hecjpn@urban.ne.jp)

Tel&Fax: 0849-55-8001

#### **平和資料館「草の家」**（高知）

6月19日には、非核と先住民族の独立をめざして、ニュージーランド軍縮諮問委員のKate Dewsさんと、マーシャル諸島共和国のMary Silkさんを迎え、交流会がもたれました。

また6月から8月にかけてPeace Wave in Kochi:平和・非暴力の文化を育てる様々な取り組みがなされました。平和映画祭、教科書展、アジアの人々と連帯する市民の集い、「日本占領下のインドネシアの記憶展」、高校生平和祭、平和七夕まつり、平和美術展、反核平和コンサート、バイオミュージックコンサート、平和行進、8.15平和のための子どものつどいなどです。

また10月7日には、アメリカのテロ報復に反対し、「すべての武器を楽器に」という平和コンサートが行われました。(草の家の会員を含む実行委員会主催)22組もの音楽家らが参加し、市民が憩う公園で演奏され、好評でした。海外からのメッセージに、励まされました。

#### **鳴門市ドイツ館**

館報Ruhe(ルーエ やすらぎ)が9月に創刊されました。ドイツ館ゆかりの地として、ドイツ兵の墓、ドイツ橋などが紹介されています。

Fax:088-689-0909

#### **兵士・庶民の戦争資料館**（福岡）

6月17日「兵士・庶民の戦争資料館」(武

富登巳男館長)で、「彼我戦争犠牲者追悼法要」がありました。敵も味方も問わず、戦争で命を失った人たちの霊を慰め、世界の平和を祈りました。

### **福島菊次郎写真美術館**

4月には、「日本公害列島 - 自然破壊の構造」写真展、6月には「9000人の証言、写真で見る戦争責任」展が山口県柳井市で開催されました。この写真は、敗戦直後から撮影された戦争被害者と旧体制復活の記録で、戦争責任の所在を訴えた写真展です。また7月には「自衛隊と兵器産業」の写真展が開かれました。Fax: 0820-23-1823

### **岡まさはる記念長崎平和資料館**

「西坂だより」第29号によると、平頂山事件幸存者証言集会在7月12日に開催されました。12月8日には、南京大虐殺証言集会をする予定です。

<http://www/d3.dion.ne.jp/~okakinen>

Tel & Fax: 095-820-5600

### **静岡平和資料館をつくる会**

ニュースレターNo.47によると、中学校副読本に平和資料センターが紹介されました。静岡大空襲の様子は、下記のホームページで知ることができます。

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa>

[shizuoka-heiwa@nifty.com](mailto:shizuoka-heiwa@nifty.com)

### **赤レンガ倉庫に平和博物館を**

5月29日、横浜大空襲の日にあたり、横浜市の赤レンガ倉庫に平和博物館を加えることを、横浜市長に要望しました。赤れんが倉庫に博物館をピースミュージアムよこはま実行委員会：Fax:045-241-4987

### **松代大本営の保存をすすめる会**

8月14日には平和夏まつりが行われました。松代大本営平和祈念館を地元の人たちに理解してもらい、共に祈念館を含めた平和な町づくりをしようと始まり、今年で6回目です。また8月12日に「夏休み親子見学会」があり、地下壕を見学しました。

<http://village.infoweb.ne.jp/~kibonoie>

Fax: 026-224-1761 (きぼうの家)

### **平和のための戦争・戦災資料センター**

東京大空襲を始めとする戦争資料センターの実現に向けて、募金を集めています。5月には、「世界の子どもの平和像」序幕式が行われ、当センターに仮設置されました。

<http://www2.odn.ne.jp/seikeiken/>

Fax: 03-5683-3326 (政治経済研究所)

### **沖縄国際平和研究所**

6月9日沖縄大学で、シンポジウム「新教科書問題を沖縄から考える」が開催されました。また1月14日から始まった「やさしい平和講座」が、7月8日に終了しました。また8月12日「証言者とたどる戦跡」と題して糸満市伊敷の「轟の壕」など沖縄戦の現場を訪ねる戦跡巡りを行いました。(事務局だよりNo.3より)

### **\*会議、戦跡巡りなど**

**仙台の史跡めぐり**：6月3日、平和委員会、日中友好協会、歴史教育者協議会、生協の共催で、平和のためのバスツアーがありました。

### **第5回戦争遺跡保存全国シンポジウム・ネットワーク大会**

8月4 - 5日に川崎市平和館と法政第二高校で開催されました。詳細は、戦跡保存全国ネットニュースにあります。

[kibonoie@mb.infoweb.ne.jp](mailto:kibonoie@mb.infoweb.ne.jp)

<http://village.infoweg.ne.jp/~Kibonoie/>

Fax: 026-224-1761

### 空襲・戦災を記録する会全国連絡会議

8月10-11日に江戸東京博物館で、開催されました。作家、立松和平氏の講演「記録すること、その周辺」後、情報交換などしました。

連絡先：東京空襲を記録する会

Fax: 03-5683-3326 (土岐島雄氏)

#### **\* 出版物 \***

**みんけん連通信 No.1:** 全国自由民権研究連絡会は、自由民権運動の学習・研究に関する情報交換の場として、通信を発刊しました。高知市事由民権記念館、町田市立自由民権資料館、早稲田大学自由民権研究所の活動の紹介などがされています。

事務局：町田市立自由民権資料館

Tel042-734-4508 Fax:042-734-4508

### 第九条の会ヒロシマ会報 29号

29号には、「憲法第九条を平和憲章に！」と題し、5月3日憲法記念日リレートーク、また代表世話人の岡本三夫氏(ヒロシマ修道大学教授)の「統一コリア共和国・2020年」という興味深い記事などが載せられています。[fujii@jca.apc.org](mailto:fujii@jca.apc.org)

<http://www.jca.apc.org/~fujii/index.htm>

Tel&Fax: 082-255-6580(藤井様方)

### あーていくる9

創刊特別号では、C.オーバービー博士の提唱として、「第9条と日本国民に、ノーベル賞を！」という記事を載せています。

第9条の会・オーバー東京 - Fax: 03-5377-5886

E-mai: [tkwada@ceres.ocn.ne.jp](mailto:tkwada@ceres.ocn.ne.jp) (和田氏)

### 日吉台地下壕保存の会会報第57号

5月26日に、日吉台地下壕の見学会が行

われました。日本の歴史の重要な舞台となった史跡ですが、慶應義塾大学で400万円かけて、地下壕整備工事が3月末に完了しました。(問い合わせ先：喜田様方 045-562-0443)

### 平和ミュージアム CD-ROM

立命館大学国際平和ミュージアム監修のCD-ROMが岩波書店から出されました。小・中学生のためにわかりやすく説明したジュニア用メニューも容易しています。学校図書館や公立図書館などで、活用できます。本体9500円です。

<http://www.iwanami.co.jp/> (岩波書店)

#### **「植木枝盛研究資料目録」**

外崎光広著、「高知市の草の家」出版。1200円。日本国憲法の源流をつくった思想家、植木枝盛の百科辞典ともいえます。

### **戦争を予防する活動に関する本：イギリス**

*War Prevention Work: 50 Stories of People Resolving Conflict* by Dylan Mathews (著者、Oxford Research Group 出版) £12(個人) £16(団体) この本は、普通の人々やNGO、教会などの団体が暴力を使わないで、いかに紛争を解決したのかを載せています。(英文)

連絡先は、下記の通りです。

OxfordResearch Group: 51 Plantation Road, Oxford OX2 6JE UK

Fax: +44 (0) 1865 794652

[Org@oxfordresearchgroup.org.uk](mailto:Org@oxfordresearchgroup.org.uk)

#### **\* 編集後記 \***

国際、国内両ネットワークのニュースがかなり増えましたが、紙面制限のため、十分お伝えできなくて残念です。ニュースの感想、御意見をお待ちしています。また12月に英文で日本のニュースを発行しますので、11月末までにお知らせ下さい。

高知市平和資料館「草の家」国際交流部

山根和代